

平成30年度 第1回今治市総合教育会議 議事録

- 1 日 時 平成30年5月9日(水)
午前10時30分～午前12時
- 2 場 所 今治市役所本館2階庁議室
- 3 出席者 今治市長 菅 良二
今治市教育委員会
教育長 八木 良二 委 員 藤井 信子
委 員 村上 浩一 委 員 篠宮 博幸
委 員 西原 梨乃
(事務局関係)
総務部長 矢野 隆治
総務部総務調整課長 片上 裕之 同課課長補佐 宮崎 晃嘉
同課主事 越智 健太
教育委員会事務局長 林 秀樹
事務局次長(総務課長) 橋田 裕旨
事務局次長(学校教育課長) 田坂 敏
社会教育課長 神野 秀夫 文化振興課長 富田 義勝
スポーツ振興課長 松本 典久 学校給食課長 塩見慎一郎

(菅市長)

あらためまして、おはようございます。

今回は西原委員が皆さんの仲間になるということで、新風を吹き込んでいただけるのではないかと期待をしております。いろいろな面で、いわゆる行政の立場、教育委員会、独特な独立機関でなくて風通しをよくしていこうという、そういう会であろうと思っております。

忌憚のない意見交換ができればと願っております。

(八木教育長)

本日もこうして皆様と一緒に話できる貴重な機会をつくっていただきましたこと、大変ありがたく思っています。いろいろなご意見、ご提言をお出しただいて私どもの参考にもしたいと思っておりますので、今日はどうぞよろしく申し上げます。

(西原委員)

教育委員を拝命いたしまして、まだ1か月あまりですが、はじめてのことばかりで戸惑うことも多く、皆様に教えを請いながら、学びを重ねているような状況です。

保護者の立場から皆様のお役に少しでも立てるようにがんばってまいりたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

(菅市長)

それでは早速ですが議事に入らせていただきます。まず、報告となりますが、昨年、発生しました重大事態の件と桜井地区英語クラブにつきまして、報告をしていただきたいと思います。

思います。

(渡辺人権啓発課長)

(田坂学校教育課長)

概要説明

(村上委員)

いじめというのはどこからがいじめで、どこからいじめでないかということは学校現場にいて本当に難しいと思います。

いくらかのいざこざを乗り越えながら、子どもたちが人間対応能力、いろんな集団の中でしていいこと、反対に、言ってならないこと等を学んでいくことが必要ではないかと思えます。

(篠宮委員)

今後、二度と今治から重大事態がおこらないようにするためにも初期対応が大切であるが、責任が先生だけに押し付けられていると感じますので、第三者による対応を増やすことが、子どものためには必要ではないかと感じます。

(菅市長)

一番身近な親とか先生に率直に言ってくれたらいいのに、友達には言えるけど、なかなか親、先生につながらないということで、事態が悪くなることもあるでしょうけれども。

(藤井委員)

私はいじめを多く体験しており、中学校に入った時もありまして、親に言えなかったです。だから、親にも先生にも言えないという子どもの気持ちはその通りだろうなとすごく素直に理解できます。

私の考えではいじめはどこにでもある。大人の世界でも必ずあるので、誰かが助けられると思っても誰も助けしてくれないので、自分で解決するしかないというのが、私の何回かいじめを受けた結論です。

だから子どもさんにも、どこまでしたらいいか、こういう時はどうしなければいけないかを学んでいくことが本当に必要なことだと思います。

(八木教育長)

学校現場はつらい思いをしている子どもに寄り添って対応していかないといけない。

教員としては子どもたちの変化に気がつく目というか、アンテナを高くし、先生方にしっかり指導をしなければならないなと思いました。

(菅市長)

そうですね。一番、毎日見ているわけだから、おかしいなと思うのは感じることはあっても、何しろ、雑務が昔からみるとずいぶん多いと聞いています。そのあたりも問題なんだと思いますが、先生方には努力をしていってもらいたい。

もうひとつの議題として、英会話の件ですが、私が3、4年前に台湾に行って、台湾の人に英会話の力があるのにびっくりしました。この間、京都工芸繊維大学の羽藤教授にお話をいただいた時に、英語は外国語ではなく国際語ですよということを聞きまして、本当にその通りだなあと思いました。今治市の取組として、桜井での放課後英語クラブの話をお願いします。

(田坂学校教育課長)

概要説明

(菅市長)

どこで実施していますか。

(田坂学校教育課長)

国分小と桜井小、桜井中の児童生徒を対象としており、今の場所は桜井中学校です。小学生が参加しやすいように、小学校でも順番に開催できればと考えています。

(菅市長)

開催は月に1回。回数を増やすことは物理的に難しいということですか。

(田坂学校教育課長)

スタッフの打合せに非常に時間がかかるということと、ALTが中心になってカリキュラムを組んでいるのですが、英語教師との打合せ、綿密な準備を考えたときに週1では間に合わないということです。月に1回、できれば2回というかたちで、目標としてこれからがんばっていきますが、とりあえず月1でということと計画を立てているようです。

(村上委員)

以前、藤井委員さんが英語について、英語の部活を作ったらどうかというお話をされて、私はその時にすごい意見だなと思いました。英語の部活は自分の頭に無く、すごい印象に残った記憶があります。

そして桜井英語クラブがきっと形になったものだろうなと思いながら参観させてもらったんですが、こういう活動が今治に広まっていったらありがたいなと。ただいろんな制約があって難しいのだろうけども、こうやって種をまいたのが、やがて芽を出して花を開いていく、私はそういう活動だなと思って感動したというか、いいなと思いました。

(菅市長)

ぜひまた広げていける状況作りを考えてもらったらありがたいですね。日本全体もそういった空気になってきていると思いますけど、次の世代は確実に対応できるように、それはぜひ目指すのではなく実践してほしいと感じています。

(西原委員)

英語は、英検ですとか TOEIC ですとかそういうものはあるけど、目指そうというところがないので、このあたりも先生方も指導するに当たってどこを目指したらいいのかということがわかりにくかったり、今治市では「こういうふうに中学生たちが、英会話をできるようになりました。」という成果として、目に見えるものがあまりないのかなと思います。

今治市で英語のディベート大会を中学対抗でやってみるとか、そういうものがあったら、目標になるのかなと思います。

(篠宮委員)

放課後英語クラブを見にいった時に、学ぼうとして来ている子どもたちだけなので非常に積極的にALTの会話を聞こうとするし、聞いて一生懸命答えようとするし、この姿勢が大切なのかなと。

先ほどカリキュラムの関係でなかなか増やせないという話だったんですけど、もっともっと普通の会話ができる教室でもいいんじゃないかを感じるんですけど、そういう機会を可能なら増やしてほしいと思います。

(菅市長)

今のカリキュラムの中で、新たにというのは難しいかもしれないけども、あちらこちらで立ち上がるようにぜひチャレンジしてほしいですね。

(林事務局長)

将来的な展望としては、ICT の関係でネット環境を整備しますと、海外に派遣した子どもたちが向こうの学校と、いわゆる双方向でパソコンを通じて会話をしたり、お互いの学校生活の状況を情報交換したりすることができるようになりますので、そういったかたちの整備も検討をしていけたらと考えています。

(菅市長)

その他ございますか。

(村上委員)

財政状況は厳しいと聞いておりますが、学校関係では、市費で、英語教育にもものすごく貢献している ALT、嘱託講師、学習アシスタント、学校生活支援員を配置してくださっています。今年度新たに校務支援システム、また、学校教育課の人員も増員してくださったと聞いております。一言ここでお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

(市長)

子どもたちが一番ですから、そのためには土壌をしっかりと我々が支えていく必要があります。

例えば、松山市が空調関係の整備を行っています。今治市も結構な数の学校があります。いい環境で子どもたちをとというのは、我々の願いですが、いろいろ課題はあります。補助金なども研究してもらって、先を見つめてハード整備をしていってもらったら。

(西原委員)

保護者サイドからすると、簡単なことだと思われているんです。大々的にやると認識してなくて、家庭に空調設備をポンと入れる感覚なので、簡単なのにやってくれないという不満はあるのだと思うのですが。

(菅市長)

研究はしてみます。できるだけいい環境で、今まで我慢してやってきたんだから、やれないことないだろうと今までずっとやってきましたけども、温暖化や家での環境が良くなったので、余計その差を感じるのかなと。

空調の話は、やるとなったら全部しないと。一部の学校だけというのは、かえって混乱を招くので、鋭意検討していきたいと思います。

(林事務局長)

一点よろしいでしょうか。関前地域の教育に関してずっと思いを巡らしています。

教職員の配置は適切にできているのですが、船で渡ってきて多くの子どもたちと交わって学習することが、年に5、6回しかありません。他の学校との遠隔授業が関前でできないかなと思っています。

先生がいて通常の授業はできるのですがけれども、例えば日吉中学校との遠隔での授業で、いろんな意見があって、自分の意見も言うという双方向の教育の実現をしていくべきのかなと思っています。そういう方向で検討を進めさせていただいたらと思っています。この場をおかりしてよろしく願いしたらと思っています。

(菅市長)

1人でもいたらきちんと事はしたい。でも全体のコストも考える必要がある。実際どうするかはこれからのことで、広域連携はぜひやっていかなければならない時代である。今治市だけでいいのか、隣の西条市や松山市もあり、お互い他と協力してできることはやって、無駄な投資を避けていくというのがこれからの時代ではないかな。

先を見越した見通しを考えなかったら後の維持管理が大変だなというのを含めて、今の問題等をまた冷静に考えていく必要があるのではないかなと思います。

合併効果、統合効果というのは学力の面は見えませんがわかりにくい。統合の絶対的な効果を示してくれたのが大三島中の野球でした。県大会で優勝戦に勝ち残って、対戦した相手が南中で、さすがに南中が優勝しました。桜井招待で今度は強豪校の西中と当たって、1対0で西中が勝ちましたが、もしあのまま大三島中が別々にやっていたら、とてもこんなことはできなかった。やっぱり統合してよかったなと感じています。

統合についてはまだまだ課題が残っています。しかし、やるべき統合はやっていくべきかなあと、それが子どものためであるならば、必要もあるのかと。そういったことを含めて、みなさんにみていただきながら将来像を定めていきたい。

みなさんの力でまた今治の教育をしっかりと考えていただければありがたいと思います。今後ともよろしく申し上げます。

以上